

平成 27 年度政策討論会第二分科会要点記録

- ・日時 平成 27 年 9 月 17 日
- ・場所 会議室
- ・会議時間 10 : 00 ~ 11 : 00
- ・出席者 座長 岡林 憲二
副座長 金子 拓矢
稲田 悦治
井上 博
今口 千代子
岩崎 雅秋
烏野 隆生
米田 貴志 (五十音順)

・今回の狙い 本分科会のテーマは、「岸和田の観光におけるインバウンド観光客の取り込みについて」であるが、岸和田市の現状を把握すること及びその課題を抽出することを今回の目的とする。

発言要旨（順序不同）

- ① まず、インバウンド観光客については、団体観光客と個人旅行者とに分類できるが、団体・個人どちらの旅行者に狙いを絞る必要があるのではないだろうか。

先般、団体旅行のコースとしての可否を中国人企業家に、大阪府鯉巾着組合が港湾施設内で八月二日から開催してマルシェを視察して頂いたが、中国人団体旅行者を案内出来る規模ではないとのことであった。

本市の現状や近い将来を考慮しても団体旅行者を集客できる施設整備は困難である。よって、本市では個人旅行者に絞り、その為の施策に取り組むべきと思われる。

本市観光計画においても、インバウンド観光客については白紙状態のようなものであるので、個人観光客に絞り、リピーターとして、又、情報発信の媒体としても有効であると思う。

観光というと、ホテル・公共交通が無い等、無い物ねだりではなく、今あるストックで発想の転換で本市の観光を議論すべきである。」

②

- 一、観光資源として本市のみでは無理がある。泉州一帯を取り込んだ観光ルートを広域で取り組むべきではないか。

岬町の自然海岸の景観から本市の祭り、堺市の世界遺産に登録しようとする御陵群などがあれば見ごたえがある。

- 二、本市の望む観光行政の対象と目的や目標をハッキリとさせる必要があるのでは。

すなわち外国人対象か日本人か、リピーターか単なるインバウンド観光客か。

これらをまず決めて観光行政をどのように進めるのか検討すべきだ。

もしくは取りあえず全てを受け入れて、一旦どのようなものか見てから、対象者や目的、目標を決める方法もある。

- ③ 現在の岸和田市観光振興計画には訪日客取り込みの数値目標がなく、平成 28 年度に振興計画で入るはずですが、まずは目標が必要と考える。その上で現状、訪日客の受け入れ体制が出来ていない。「だんじり会館」「岸和田城」「観光交流センター」等、費用対効果があると思うが通訳がいないし、外国語での案内チラシが少ない。低予算で効果があると思うのは、言語を介さないで発信できる動画配信が良いと考える。テレビで放映していたが、西成には訪日宿泊客が今多いみたいです。それは、交通の便が良く、宿泊代が安いからのようです。本市においては関西に近いという地の利があり、大阪市内へも 30 分程度で行けます。あとは滞在時間を延ばすための宿泊施設ですが、ホテルもいいですが、安価な宿泊所とか民泊施設ができないものかと思います。
- ④ 第一に、宿泊施設の整備が足りていない。大型宿泊施設も必要であるが、まずは先日
の委員会でも申し上げた通り、府の民泊制度創設に備えることから始めるのはどうか。
また、内外価格差が要因とされる所謂爆買現象は永続的に続くはずもなく、今後十年く
らいが商機ではないか、とも言われている。大型ショッピングモール等が存在しない本
市が目指すべきは、やはり買い物中心の「モノ消費」観光ではなく、体験型観光の「コ
ト消費」観光だと考える。一例をあげると、神戸市の体験型観光施設「北野工房のまち」
では、和ろうそくの手作り体験や絵付け体験が人気で、東アジアや東南アジアからの観
光客が増えているとの報道もあった。本市も、だんじり祭りに関連する提灯や団扇の作
成及び絵付け体験、だんじり祭りや市内で多数開催されている盆踊りを生かして、そこ
への参加体験等、提案できる材料はあると考える。
- ⑤ 岸和田市内に住んでおられる外国人のひとに岸和田の観光地を観光して頂き、帰国し
た時に、いい所をアピールしてもらい、又他市とも協力しあい、外国人の観光を発信し
て広報に努める。そして、観光協力や国際親善協力とも協力し、外国人の観光の広報に
努める。外国人向けの観光マップはあるが、観光に来ている時に、自然災害が発生した
場合に、外国人向けの防災マップをつくることで、安心して観光して頂ける。
- ⑥ インバウンドの取組みの中で、課題となる環境の一つに、海外から訪れる方々が自由
に場所を選ばずインターネットが使えるワイファイを整備する事が重要だ。

また、団体旅行のゴールデンルートとされる東京国際空港⇄富士山⇄京都・大阪⇄関
空である。そこから取り込みにも各自治体とも苦慮している。一方で団体旅行の企画の外
にあるものを求める個人旅行者、いわゆる FIT と呼ばれる方々も増えている。本市とし
ては後者の取り込みにも力を入れるべきと考える。FIT の方々は伝統的観光地にないユ
ニークさを探訪することに積極的である。そこにヒントがあるのではないか。SNS の
活用や YOUTUBE 等動画の活用も重要な条件となる。

- ⑦ 大阪への外国人の観光客は、台湾・韓国・中国からが多く、岸和田では、きっちりとした集計ができていませんが、同様に考えていいのではないのでしょうか。

外国人観光客を迎えるには、それにふさわしい規模の受け皿となる施設が必要です。岸和田には、今のところ、自信を持てる物は、ないと思います。経済効果を求めてのインバウンド観光客を求めるのは難しいと思います。可能性があるとしたら、岸和田城ではないのでしょうか。二の丸公園も含めて、もっと魅力ある風景作りや、行事など、市民も、もっと足を運ぶ場所にかえていくことによって、立ち寄ってもらえる、岸和田のお城にすべきだと考えます。

- ⑧ 訪日外国人に対しての受入体制が重要になってきている中で、特に中国人の爆買い等に見られるように荷物の増加に対応する必要がある。大量の荷物を持ちながらの旅行者の負担を減らす必要がある。

次に、訪日外国人が必要としている情報として、公共交通機関の利用方法が、かなり重要性がある。岸和田においても、電車・バスの利便性を向上させる必要があると思う。

以上